

6 (藤沢地域) プレゼン発表

【藤沢地域の課題 (概要)】

【課題解決方法】

【プレゼン資料】 / 【説明者の発言】

6 (藤沢地域) プレゼン発表

※詳細は未項「(別表) 個別事業一覧」参照願います。

【藤沢地域の課題】

- 藤沢市の引きこもりは人口比で4千人弱いるとされる。
- 引きこもりの支援は、次の1～3のステップに分けて考える必要がある。
 - 1 外出し、体を動かし生活リズムを整える
 - 2 集団行動を行う
 - 3 職場が求める生産性で働く

【課題解決方法】

⇒農業はステップ1と親和性が高く、非常に有効である。また、自治体、NPO等との協働により、ステップ2、3に繋げていく必要がある。



令和4年度 地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和4年11月8日）

引きこもりへの支援分野

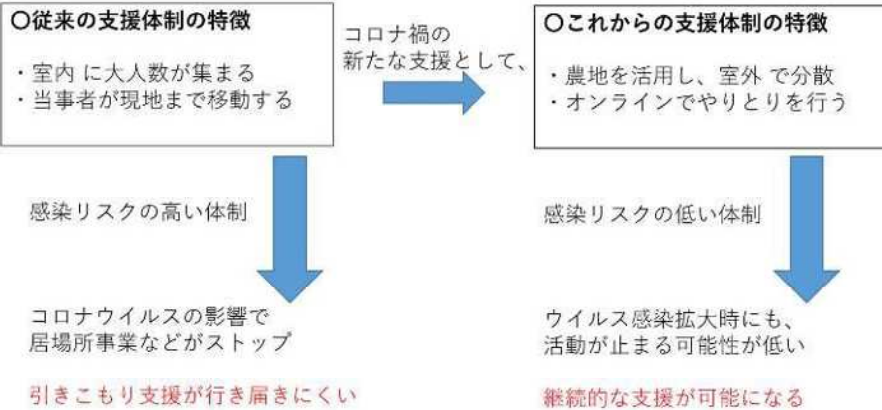
新しい支援様式 農園を引きこもりの 活動場所に！事業

藤沢市農ネットワーク

- 藤沢市農ネットワークでは、引きこもりの方への新しい支援様式として農園を活用した支援事業を行っていますので、本日は、これまでの進捗と今後の方針について、発表します。

第1 概要

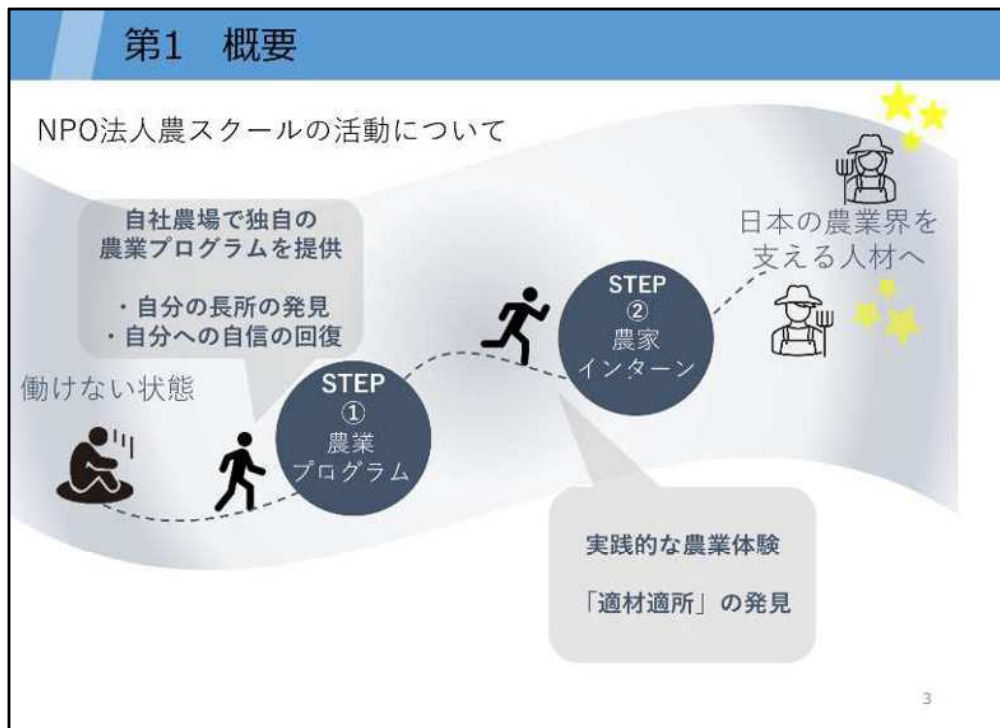
事業目的
農園を使った分散型の引きこもり支援体制を作る



2

- まず、今回の事業目的として、農園を活用した分散型の引きこもり支援体制を掲げています。
- 農ネットワークでは、屋外の農園を活用した感染リスクが低い体制をとっており、コロナ禍での新たな体制として継続的な支援が可能になるものと考えています。
- 以下、体制を確立するための組織の形態と活動の内容について報告します。

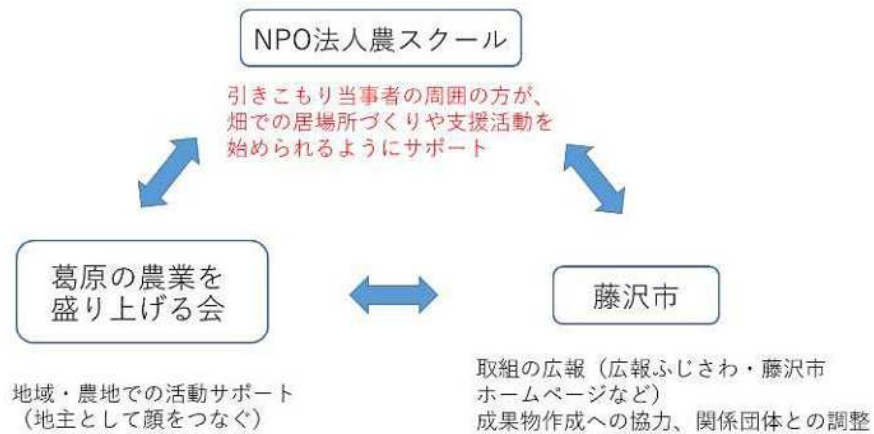
第1 概要



- 前提として、NPO法人農スクールが実践しているプログラム活動について簡単に紹介いたします。
- 農スクールでは、様々な事情で働きづらさを抱える人々に対して、農作業を活用した就労支援プログラムを提供しています。
全6か月のプログラムになりますが、前半3か月では、自社農場での農作業により体とメンタルを整え、後半の3か月間で近隣の農家の方へのインターンを通じて農業の基礎的スキルを習得し、希望される方は、農業法人の雇用就農を目指すといったものとなっています。

第1 概要

藤沢農ネットワーク 構成団体と役割



- 事業開始当初の協議体内の役割と相互連携の流れについて報告します。
- 農スクールでは、引きこもりの方の家族や近くの支援者が野菜づくりを身に付けて、畑での居場所づくりや支援活動を始められるよう、その活動サポートを主な目的としています。
- 藤沢市の地域共生社会推進室では、農スクールの活動のサポートとして広報や調整役を担っています。
- 葛原の農業を盛り上げる会は、農スクールが使用している農地の地主で構成されているものですが、地域での活動をサポートしています。

第2 進捗状況

事業報告 1 農業の始め方テキスト作成、配布

藤沢市と協力して、
市民農園や、居場所
事業「地域の縁側」を
紹介するページを作成

野菜づくりを始めるための情報や支援場所の情報が載った
テキストの作成（2020年10月～2021年3月）、配布（2021年4月～2022年1月）

2500部印刷
1500部ほど配布

神奈川県共生推進本部室	10部
藤沢市農業水産課	125部
藤沢市地域共生社会推進室	125部
メンタルホスピタルかまくら山	10部（鎌倉市）
さかい内科・胃腸科クリニック	250部（鎌倉市）
ココロまち診療所	10部（藤沢市）
慶應藤沢イノベーションビレッジ	20部
藤沢市地域の縁側	各1部
くまもと湘南館	280部

- ここからは、過去2か年の事業について順を追って報告します。
- まずは、2020年度、農業の始め方を紹介するテキストを作成して、県内各地に配布を行いました。
- こちらは畑という居場所の作り方があるという手法をお伝えして、野菜づくりの始め方や、市民農園、支援場所について紹介させていただいた冊子となっています。

第2 進捗状況

事業報告 2 農業の始め方HP・動画作成

藤沢市ホームページにて
農福連携の取組紹介
ページを作成

野菜づくりを始めるためのHP・動画の作成 (2021年4月～10月)



HPから動画にリンク



市民農園の場所を調べられる地図



- 続いて情報サイトのホームページ、「藤沢市農ネットワーク」というホームページを作成しました。
- こちらでは、野菜づくりの基本的な知識や、市民農園の選び方などを紹介するとともに、項目ごとに農作業を説明する動画を掲載しています。
- こちらと関連して藤沢市のホームページに、市内の農福連携の取組を紹介するページを作成し、農業の始め方についての情報と畑を通じた居場所づくり事業について紹介を行っています。

第2 進捗状況

事業報告3 畑オープンデーの開催

引きこもり状態の方の周辺の方を
対象にした農業体験会・相談会を実施
(2021年6月～2022年3月)



広報ふじさわやFacebook広告などで広報

農の力で一歩踏み出す
畑オープンデー

【参加者】

6月28日	7人	11月29日	1人
7月26日	6人	12月27日	5人
8月30日	3人	1月31日	4人
9月27日	8人	2月28日	4人
10月25日	9人	3月28日	2人

- 事業報告3つ目として、2021年度、家族や身の回りに引きこもりの方がいる参加者に向けて、畑での居場所づくりや支援活動を始める最初のきっかけとして、畑オープンデーという農業体験会を月1回開催しました。
- こちらは、広報ふじさわやフェイスブック広告などで参加者を募り、延べ49名の方にこれまで参加いただきました。

第2 進捗状況

農園を使った分散型の支援体制を広げるためには？

1年目（2020年度）

【目的】

農業を始めるための
支援体制の確立

【活動内容】

- ・野菜づくり冊子の作成
- ・冊子を県内で配布
- ・野菜づくり動画の作成

2年目（2021年度）

【目的】

農業を始めるための
支援体制の確立

【活動内容】

- ・野菜づくりの副教材
ホームページの作成
- ・農業体験会：オープン
デーの開催

冊子、動画、ホームページによって、
農業を通じた自立支援プログラムの提供を手助けする

オープンデーが最初のきっかけの場となる

- ここまで、過去2か年の成果をまとめたのがこちらのスライドになっております。
- 2020年度、2011年度では、冊子、動画、ホームページといった、野菜づくりの副教材の作成と同時進行で、毎月の農業体験会を開催しました。

第2 進捗状況

事業1年目（2020年度）～2年目（2021年度）課題

いかに次のステップの場を増やせるか

農業に興味を持った人に対して、野菜作り冊子・動画・オープンデーの開催など農業に関わる方法を周知してきたが、受け皿となる場所と担い手の人材不足のため支援が十分に広がっていない

〈対策〉

働きづらさを抱える人に対しての農業スキル+人材育成スキルを持った農スクールのノウハウを提供

↓

担い手となるトレーナー（農業を通じた自立支援プログラムを運営できる人）を各所に増やす

↓

トレーナーの存在が、次のステップに進める人を増やす事につながる

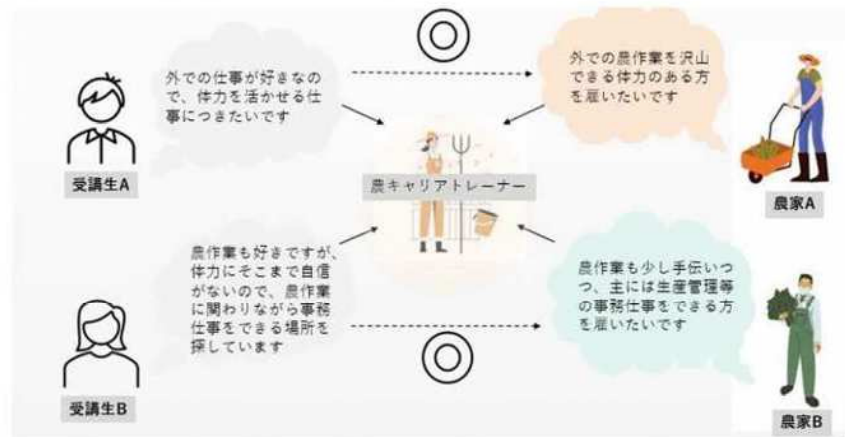
9

- そうした2年間の活動を通じて生じた課題が、いかに次のステップの場を増やせるかというものです。
- 引きこもりの方の支援には、農福連携のようなプログラムの場所があって、その存在が当事者まで届くことがまず第一歩だと考えています。
ただ、現状の取組だけでは、受け皿となる場所や担い手が不足していることにより、支援の場がなかなか広がりにくいという課題が生じてきました。
- そうした課題を解消するためには、農スクールがこれまで培ってきた農業のスキルと自立就労支援のスキルのノウハウを提供することで、自らが主導してプログラムの担い手となり得る人材を育成する必要があるのではないかと考えました。
- そうした人材のことを「農キャリアトレーナー」とここでは定義しています。

第2 進捗状況

農キャリアトレーナーの役割

受講生の特性や希望就労スタイルと、就職先が求める人物像を把握し、お互いにとって良好なマッチングを図る



10

- それでは農キャリアトレーナーの役割について、もう少し具体的に紹介いたします。
- ここでは一つの例として、農業を職業にする雇用就農のサポートを行う場合の役割について報告します。
- 農業を職業にする場合は、その職場の農作業の内容によって、体力や一定の作業を反復する力や周囲と連携してコミュニケーションを取る力など、職場によって求められるものは多様になってくるかと思います。
- 農キャリアトレーナーは、プログラムの過程で受講生の特性、資質や本人が希望する就労スタイル、その受け入れ先となる就職先が求めている人物像をそれぞれ把握して、就農後の両者のミスマッチを防ぐ役割が求められています。

第2 進捗状況

農園を使った分散型の支援体制を広げるためには？

1年目（2020年度）

【目的】

農業を始めるための
支援体制の確立

【活動内容】

- ・野菜づくり冊子の作成
- ・冊子を県内で配布
- ・野菜づくり動画の作成

2年目（2021年度）

【目的】

農業を始めるための
支援体制の確立

【活動内容】

- ・野菜づくりの副教材
ホームページの作成
- ・農業体験会：オープン
デーの開催

冊子、動画、ホームページによって、
農業を通じた自立支援プログラムの提供を手助けする
オープンデーが最初のきっかけの場となる

3年目（2022年度）

【目的】

農キャリアトレーナーの認知
拡大・育成

【活動内容】

- ・トレーナーのプログラム
運営に役立つ動画の作成
- ・トレーナー育成講座を開催

プログラムの担い手を育成、
ひきこもり支援を担う場所を
各地に広げる

11

- そうした新たに見えてきた課題、支援場所と担い手が不足しているといった課題を踏まえた今年度の事業計画がこちらとなっております。
- 2022年度は、引きこもり支援の場をより各地に広げるために、自らが支援の担い手となるようなトレーナーの育成に活動をシフトして進めてきました。

第2 進捗状況

事業報告4 農キャリアトレーナーの認知を広げる動画作成

農スクールプログラム修了後に雇用就農している方、
雇用者である農業法人の方々へのインタビュー動画を撮影（2022年8月）



藤沢市ホームページにて
動画紹介予定



就職後のゴールイメージを共有
する動画として、農キャリア
トレーナーに興味がある人にみ
てもらうために活用

12

- 今年度2022年度の事業報告ということで、ここでは2つ、報告いたします。
- まず一つは、農キャリアトレーナーというものの認知を広げるため、インタビュー動画を作成しました。
- こちらは、過去に農スクールのプログラムを修了された後、農業法人に就職された方、あるいはその方が現在働いているところの雇用者へのインタビュー動画をそれぞれ作成したものとなっています。
- これによって、農業を通じた自立支援プログラムの効果や、そこを受けられた方の就職後の様子を知ってもらい、就職後のゴールイメージを共有できる動画となっています。

第2 進捗状況

事業報告5 農キャリアトレーナー育成講座を開催

農キャリアトレーナー講座 「誰もが農業を職業と食糧に」の階層別研修 を開催

【講座内容】

- ①農スクールの活動紹介、現状の課題
- ②農キャリアトレーナーとは
- ③トレーナーの活動事例、農福連携に向けた今後の課題(階層別で内容は異なる)

【参加者】

9月22日 3人 10月25日 13人
藤沢市東部民児協 低所得者部会、
藤沢市CSWの方々を含め、
就労困難者の就労や農業者の人手不足問題に
興味関心を持った方々が参加

農キャリアトレーナーの実践現場での心得

- 自分自身の心身の健康を、常に保つことを怠らざる
- 人間の脳は、無意識のうちに「先入観」に引きずられてしまう構造であることを自覚しておく
- 受講生の1年後、5年後、10年後、20年後を整備して対応する
- 言葉ではなく行動を見る



- 今年度の事業報告の2つ目として、農キャリアトレーナーの育成講座を開催しました。
- こちらは、オンラインと会議室内での屋内開催をそれぞれ1回ずつ実施して、藤沢市の民生委員やコミュニティソーシャルワーカーの方や、就労支援施設に勤めている方など、合計16名に参加いただきました。
- 参加者の前提知識や会社によって内容は多少異なるものでしたが、共通して就農支援プログラムの活用方法や現場でこういった課題が生じているのかを実践的に紹介した講座を開催しました。

第2 進捗状況

事業3年目（2022年度）課題

いかに農キャリアトレーナーを増やせるか

2022年度：農キャリアトレーナー育成活動

①トレーナー向け動画作成 ②トレーナーの認知を広げるため入門講座開催
トレーナーの資格取得に繋げるためには？

↓
農業スキルと人材育成スキルを身に付けるために
より専門的・実践的な学びの場を提供する必要がある

農業スキルを教える



メンタルトレーニングの実施



14

- それらを踏まえた考えられる課題というのが、今後いかに農キャリアトレーナーを増やしていけるかです。
- 今後、担い手となる農キャリアトレーナーを増やすためには、農業スキルと人材育成ステージのどちらも習得するために、より専門的かつ実践的な学びの場を提供する必要があるのではないかと考えました。

第3 今後の取り組み

令和4年度11月～ 支援体制の確立、トレーナー育成のための事業計画

令和4年度 11月～3月

取り組み①

トレーナー向け動画の編集、動画を活用した広報活動の展開

藤沢市ホームページなどに掲載し
農キャリアトレーナーの活動を周知
⇒トレーナー希望者への情報提供を行う

【ゴールイメージ】

トレーナー育成を通じて、働きづらさを抱える人・人手不足の農業界を繋げる活動をより広範囲で行うことができる。

令和5年度 4月～

取り組み②

農キャリアトレーナー階層別研修を提供

【目的】

トレーナーの担い手希望者に対して、
プログラム実施の為に求められる
農業スキル・人材育成スキルを提供する

15

- そういった課題を踏まえて、今年度の残り期間と令和5年度以降の事業計画について報告します。
- 引きこもりの方ですとか働きづらさを抱える人が、社会との接点を持つために分散型の支援体制を作るのを大きな目的としています。
そのためには、まずは現状について広く周知し、問題意識や興味関心を持つ人をひとりでも増やす必要があると考えています。
- そのために、トレーナー向け動画含め、農ネットワーク全体の活動内容について、藤沢市のホームページ等の媒体で紹介していきたいと考えています。
- また、次年度以降は、トレーナー講座を受講される方の希望に応じた階層別研修を予定しています。トレーナー育成を通じて働きづらさを抱える人や、人手不足の農業からつなげる活動をより広範囲で行うことを本事業のゴールイメージとして設定しています。

第3 今後の取り組み

令和5年度～自走化の予定 農キャリアトレーナー階層別研修

	農キャリア 入門 (1.5時間)	農キャリア トレーナー 育成講座 (10時間)	農キャリア トレーナー 上級講座 (90時間)	OJT プログラム
 マネージャー	×	●	●	40時間
 トレーナー	×	●	×	20時間
 サブトレーナー	●	×	×	-

※OJTプログラムは、NPO農スクールが提供している「就農支援プログラム」に実際に参加していただくとなります。
※「農キャリアトレーナー上級講座」は、農業者は免除となります。

農キャリア・マネージャー、プログラム提供者になるには
「農キャリアトレーナー上級講座」90時間、「農キャリアトレーナー育成講座」10時間
& 農スクール講座OJT40時間(導入編&基礎編)受講

農キャリア・メイトレーナーになるには
「農キャリアトレーナー育成講座」10時間& 農スクール講座OJT20時間(導入編)受講

農キャリア・サブトレーナーになるには
「農キャリア入門講座」(1.5時間)を受講

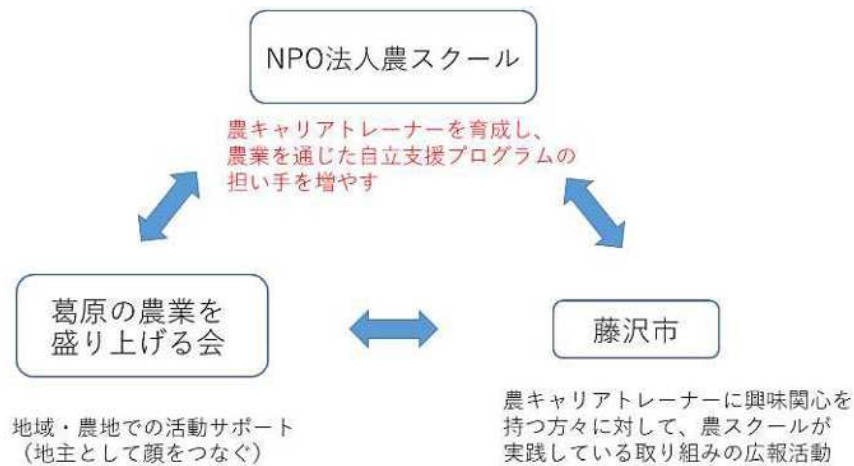
16

- 階層別研修について、もう少し具体的に紹介しますと、階層ごとの役割と講座のボリュームを分けて、トレーナーになるための必要な学びを提供するという構想になっていまして、第一歩として手軽に受講できる入門講座から、より深い農業知識やプログラムの構築方法を学ぶ上級講座まで用意しています。

それによって就農支援プログラムにアシスタントとして参加する方やプログラム全体の責任者として参加する方といった、学びに応じて階層を決定しています。

第3 今後の取り組み

自走化後⇒藤沢農ネットワーク 構成団体と役割



17

- こちらのスライドは、自走化した後、藤沢市農ネットワークの協議会の役割と相互連携の流れ、今後の方針についてまとめたものとなります。
- 農スクールでは、農キャリアトレーナー、農業を通じたプログラムの担い手を育成し、現場の担い手を増やすことを今後も主眼に置いて活動してまいります。
そして、藤沢市地域共生社会推進室では、トレーナーを希望される方、現状に対して問題意識を持っている方に対する取組の広報活動を引き続き担う予定です。

第3 今後の取り組み

分散型の支援体制のイメージ



- 最後、分散型の支援体制のイメージとして掲載していますが、農キャリアトレーナーとなる人材を育成することによって、今後構築を目指す支援体制となっています。
- これまでは、農業を仕事にする雇用就農のサポートの話が中心になっていましたが、あくまでもトレーナー本人の考えごとに支援の目的や対象者が決まってしまうべきだと考えています。
- 例えば、社会的な孤立を防ぎたいという場合は、畑に集まって一緒に農作業を行うような居場所づくり事業というものが有効になると考えますし、農スクールのように、引きこもりの方だったり、働きづらさを抱えている方の経済的自立をサポートしたいということであれば、そういった農作業を通じたトレーニングと、その後の出口となる雇用支援サポートまで一貫して行うことが必要かと考えています。
- このように支援の担い手となるトレーナーが県内各地で活躍することで、当事者の方やその身の回りの方は、自身に適したプログラムがどこでこういった内容で開催されているのか見つけやすくなって、それに参加いただくことで、より広範囲への支援が可能になるという、今後の方針としては、そうした形で考えています。

7 (藤沢地域) プレゼン後の 質疑応答

- (1) トレーナーについて
- (2) 引きこもり支援について
- (3) 畑オープンデーについて
- (4) 自走化について
- (5) その他

7 (藤沢地域) プレゼン後の質疑応答

(1) トレーナーについて

Q1-1

何人必要と考えているか。

藤沢市内だけでなく全国で活躍するトレーナーを育成するのか。

A1-1

- ・量より質であり、実現可能性では5人前後を想定している。
- ・活躍エリアは、まずは藤沢市を中心に、神奈川県内と考えている。

Q1-2

トレーナーが活躍するための伴走支援、連携、情報提供等の仕組みは。

A1-2

- ・現状では、農スクール単体で研修を行っており、まだ仕組みにはなっていない。
- ・トレーナーの要請で、法律、制度、雇用等の関係の研修を補足してほしいという話ができてきているので、行政からの情報提供などは考えられる。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(2) 引きこもり支援について

Q2-1

藤沢市には何人の引きこもりがいるのか。

A2-1

- ・引きこもりの人数は、具体的な把握が困難だが、国の調査等を藤沢市の人口に当てはめると、4,000人弱である。

Q2-2

引きこもりと、どうつながるのか。

A2-2

- ・現状では、農スクールのホームページを見て直接問合せをいただくケースがほとんどであるが、県内の自治会やクリニック等で配布した冊子を通じてオープンデーに参加したケースも一部ある。
- ・市への引きこもりに関する相談からつないだ事例もあり、引きこもり支援としての農業という考え方は、着実に広がっていると実感している。
- ・将来的な方針としては、市と連携して、市のホームページに掲載するなど広報の弾を増やしていく。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(3) 畑オープンデーについて

Q3

延べ99人参加者とのことだが、重複はあるか。
当事者の周辺の方が中心で、なかなか当事者にはつながらないのか。

A3

- ・重複はある。3、4か月連続で参加した方もいれば、2回目につながらない方もいた。
- ・当事者には、つながりきらなかった。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

（4）自走化について

Q4

これだけの時間数をかけた研修を行うためには、講師料等で支出が増えていくが、来年度から自走化するに当たり、収益化できるのか。例えば、藤沢市から助成金がでるのか。

A4

- ・NPO法人ゆえ寄付金を募って活動しているが、それだけでは限界が生じるため、別事業での助成金も活用した活動になっていくのが現実である。
- ・個々の助成については、市でも制度があるので、必要に応じて話し合いをしていきたい。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

（5）その他

Q5-1

苦労した点を教えてほしい。

A5-1

- ・オープンデー、トレーナー入門講座などに参加いただいた方を次にどうつなげるかに苦労している。
- ・「良かった。」との声はいただけても、引き続き畑に来てみたい、本格的にトレーナーをやりたいと、その後何かにつながるケースは少数である。
- ・次の行動に「つなげる」のも、次の担い手になってもらう意味の「つなげる」も両方まだまだである。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

（5） その他

Q5-2

県で別事業として実施している「農福連携マッチング等支援事業」との連携はあるのか。

A5-2

（事務局の県から回答）

- ・「農福連携マッチング等支援事業」は、障害者を重点に置き、農家と障害者をつなげるマッチングの事業であるため、引きこもりに対する直接的な支援である当該事業とは、支援の質が変わってくる。